

平成 28 年度 第 1 回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマ「お互いの仕事を理解し合おう！パート5」

司会：渡部委員(とまと歯科) 松田委員(ナシングホームもも・いなべ)

●日 時：平成 28 年 7 月 22 日 (金) 19:30~21:15

場 所：員弁コミュニティプラザ

参加者：102 名

いなべ地域における在宅医療・介護の連携を図ることを目的にスタートしたいなべ在宅医療・介護連携研究会も、3年目を迎えました。

平成 28 年度第 1 回は、「口腔ケアって？」をテーマに歯科衛生士さんから講演いただき、その後多職種専門職がそれぞれのグループで熱心に意見交換を行いました。

- ☆高齢になると、口腔の廃用症状（フレイル）に注意が必要。筋力低下により口腔疲労、食事摂取低下などから全身状態に影響する場合があります。
 - ☆歯周病と生活習慣病との関係がクローズアップ！歯原性菌血症（歯肉炎から細菌が血液に入る）の防止！
 - ☆口を閉じられない人は誤嚥を起こしやすい。
 - ☆歯がほとんどなく義歯未使用者の認知症のリスクは 1.85 倍高くなるので、認知症にならないためには義歯は必要。
 - ☆専門職が共通認識を持ち、多職種で連携することが重要。
- ということなど、たくさん教えていただきました。

講演「口腔ケアって？」

講師 三重県歯科衛生士会
金海 京子先生



講演会の感想

- ☆口腔ケアについて悩んでいた事が解決できた。
- ☆普段から触れている分野ですが、もう一度確認できました。
- ☆口腔ケアの重要性について詳しく学べた。
- ☆認知症の方への口腔ケアの仕方は大変だと感じました。
- ☆口腔ケアについて学ぶ機会は多くないので大変貴重でした。

意見交換会の内容

- ☆かねてから疑問に思っていた、胃ろう患者の口腔ケアや顎骨壊死について解決できた。
- ☆口腔ケアについて悩んでいた事が解決できた。
- ☆歯科医師の先生のお話を直接聞くことができとても勉強になった。今後の接客にも活用していきたい。



歯科医・歯科衛生士がアドバイス



第 2 回研究会は…「高齢者の栄養(低栄養)について」

三重県栄養士会(鈴鹿医療科学大学教授)堀田千津子先生

日時 9月16日(金)19:30~21:15

場所 員弁コミュニティプラザ

ぜひご参加ください

平成 28 年度 第 2 回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマ「お互いの仕事を理解し合おう！パート6」

司会：田中委員(特養 アイリス) 吉田委員(日下病院 理学療法士)



日時：平成 28 年 9 月 16 日 (金) 19:30~21:15

場所：員弁コミュニティプラザ

参加者：123 名



3年目のいなべ在宅医療・介護連携研究会！ これまで、保健所長⇒訪問看護師⇒薬剤師⇒歯科医師⇒リハ職⇒行政⇒歯科衛生士とさまざまな専門職等のお話をお聞きし、今回は「高齢者の栄養（低栄養）について」をテーマに管理栄養士さんからご講演いただきました。講演後の意見交換は回を重ねるごとに盛んになり、それを楽しみに参加する方も増え、実際に“連携できた！”という嬉しい話もお聞きしています。

☆高齢者の低栄養は「疾病要因」「加齢によって起こる身体変化」「社会的要因」の3つの原因がある。

☆高齢者の低栄養は早期に発見し、予防が重要。

☆高齢者の体重変化を見ることは重要。

☆年齢が高くなると低栄養のリスクが高くなる。

☆たんぱく質やエネルギーの摂取が重要。

☆高齢者の食事支援は、まず食べる意欲を観察すること。食事形態に問題がないか確認すること。

☆「あれを食べさせたかった」という後悔することにならないような介護をしてほしい。

☆いろいろな人がいろいろな方面から高齢者の立場になり支えてあげてほしい。

☆本当に食べたいものが生きる意欲に繋がる。



講演「高齢者の栄養（低栄養）について」

講師 三重県栄養士会（鈴鹿医療科学大学教授）

堀田千津子先生

講演会の感想

☆その人がおいしいと感じるものがその人にとって一番栄養になるんだと感じた。

☆低栄養について客観的・主観的に理解することができた。

☆栄養士にとっては基本の見直しとなり良かった。

☆食事を取る事の大切さをしっかり講演いただきました。

意見交換会の内容

☆疑問に思っていたことが栄養士の方に聞くことができました。

☆他職種の様々な意見が聞くことができ良かった。どの事業所も食に関してはとても努力されている。

☆歯科先生、管理栄養士さん、勉強になる会話ができました。

☆具体的な相談や他職種を通じて問題解決していけることに気付くことができた。

第 3 回研究会は・・・

「糖尿病と不眠及び認知症との関係」

名古屋市立大学大学院医学研究科

消化器・代謝内科学准教授 今枝憲郎先生

日時 11月12日(土)14:30~16:30

場所 いなべ総合病院 2階 会議室

ぜひご参加ください。

平成 28 年度 第 3 回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました



桑原医師会長

進行：萩原医師



- 日 時：平成 28 年 11 月 12 日(土)14:30～16:30
- 場 所：いなべ総合病院
- 参加者：56 名

今回は、いなべ医師会主催『介護認定主治医研修会』との合同開催で実施しました。

いなべ在宅医療・介護連携研究会運営委員：佐藤委員
(いなべ総合病院看護師長)

「介護保険認定審査会における、主治医意見書について」
いなべ市福祉部介護保険課課長 伊藤 俊樹氏
※介護認定の流れから、主治医意見書の利用方法や特記すべき内容など、審査会に求められるポイントについて説明がありました。

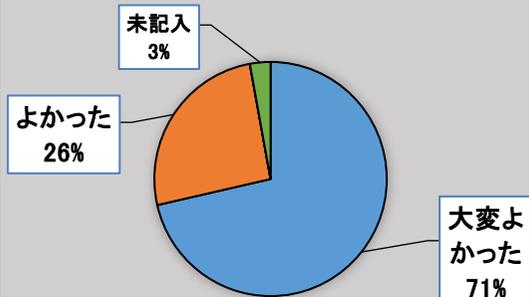
講演内容を紹介します！

糖尿病と睡眠障害および認知症についてご講演いただきました。

研修会のまとめ

- ☆不眠症は糖尿病を悪化させる。
- ☆睡眠時無呼吸症候群は糖尿病を悪化させる。
- ☆糖尿病は認知症を悪化させる。
- ☆不眠症は認知症を悪化させる。
- ☆ベンゾジアゼピン系睡眠薬は認知症を悪化させる。
- ☆1日7時間睡眠がベスト。質の良い睡眠で生活習慣病を改善しよう！

講演内容(アンケート結果)



- ・糖尿病と不眠と認知症との関係がわかりやすかった。
- ・睡眠薬の使い分け方について学ぶことができました。
- ・参考になりました。プランにも今後活かそうです。

といった感想が多く寄せられました。

「糖尿病と不眠及び認知症との関係」

講師 名古屋市立大学大学院 医学研究科 消化器・代謝内科学
准教授 今枝 憲郎先生



平成 28 年度 第 4 回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマ「お互いの仕事を理解し合おう！パート7」

司会：村上委員（桑名薬局） 中村委員（紫苑）

- 日 時：平成29年1月20日（金）19：30～21：00
- 場 所：員弁コミュニティプラザ
- 参加者：98名

この日は、10数年ぶりの大雪が降った数日後の積雪が残る中、再び雪もちらつく天候で、開催できるかと心配しましたが、多くの専門職の皆さまにご参加いただき、無事終えることができました。

今年度最後の研究会であったこの日は、念願であった地域のお医者さまからのご講演『**地域医療を支える“地域のかかりつけ医”の活動 ～ 日々の診療・往診の状況から見えてくる多職種連携～**』をお聞きした後、多職種の専門職がグループに分かれ、「かかりつけ医と連携・協力するために、他（多）職種ができること」「かかりつけ医をサポートするための心構えと体制」等の意見交換を行いました。



講演会の感想

- ☆ 感激で涙がでそうでした。
- ☆ 状況等をわかりやすく説明してくださり、多職種との連携が重要だという事がわかりました。今後関わって行く中で、**みんなで協力していきたい**と思いました。
- ☆ 在宅医療を支えていく先生は大変だなと感じました。**多職種で地域を支えていく体制が必要だ**と思います。

講師 いなべ医師会会長

（桑原医院 院長） 桑原 浩 先生

- ☆ 平成28年（1年間）いなべ市内A医院における往診・訪問診療は、42名に対し訪問回数427回、緊急往診11回、合計438回。看取り5件。
 - ☆ 小児在宅症例にかかわる中での、家族と医療から見た問題点に対し、多職種の協力も得ながら次のような対応を行った。①調剤薬局・訪問看護との日々の連携、②病院小児科との密な連携、③夜間・休日の対応、④往診による家族への医療支援 など日々の診療と往診の状況をお話いただきました。
- 意見交換では、超多忙な開業医の状況を知ること、「多職種が協力し、先生のためにできることはないか」「開業医の負担を軽減できる方法はないか」等について、熱心な討議がなされました。



意見交換会の感想

- ☆医療・介護との連携を取りやすく行えるコミュニケーション（ツール）の必要性を感じられた。
- ☆普段、気軽に質問する場がないかと思う中、意見交換会で他職種の方に聞くことができ嬉しく思います。
- ☆会を重ねるごとに顔の見える関係づくりができ、話しやすい雰囲気になっていると思われます。
- ☆皆さんの協力体制を確認できる交換会でした。

平成 28 年度 いなべ在宅医療多職種連携研修会を開催しました

急速に進む超高齢社会の中で、医療依存度の高い方や、さまざまな病気をもちながら医療と介護を必要とする方が増えてきています。毎年実施する本研修会は、医療・看護・介護・福祉の専門職の方々に、在宅医療について理解を深めていただき多職種のネットワークを広げ、在宅医療が推進することを目的に実施しています。

今回は、訪問診療の役割や訪問診療医が各専門職に求めていることなどの研修会を開催しました。

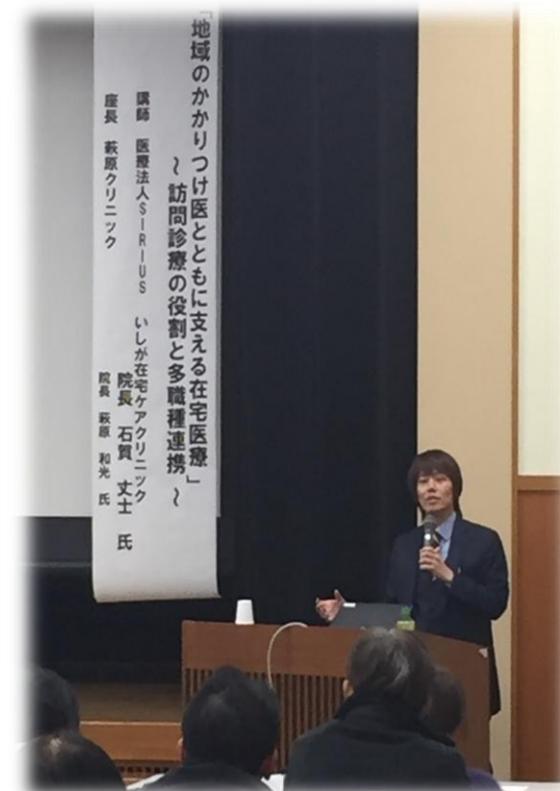
- 日 時:平成29年2月4日(土)14:00~16:00
- 場 所:員弁コミュニティプラザ ●参加者:90名
- 内 容:

**講演 「地域のかかりつけ医とともに支える在宅医療
～訪問診療の役割と多職種連携～」**

**講師 医療法人 SIRIUS いしが在宅ケアクリニック
院長 石賀 丈士先生
※座長 萩原クリニック 院長 萩原 和光 先生**

☆石賀先生の講演から…☆

- 在宅専門医と医師会（かかりつけ医）が両輪で連動し、住み分けを行うことで、いっきに在宅医療が進む。訪問看護師の活躍も大きい。
- 多職種連携とは、結局、簡単な方法ではなく、顔の見える関係を地道に作っていくことが一番！
- 在宅ホスピスは、最期に死ぬために使うのではない。残された期間をより良く生きるための手段。
- 在宅の知識とスキルアップ、顔の見える関係づくりのために、定期的に勉強会に参加することが大切。



☆講演を聞いての感想☆

- 今、今日、自分として何をしなければならないかを考えるきっかけになった。
- 石賀先生のお話を聞いて在宅医療の素晴らしさや大切さを感じることができました。
- 医療・介護職としての心構えが再確認できました。
- 私も素敵な笑顔が患者さんから見られるように頑張ります。
- 在宅医のパイオニアとしての自信と誇りに満ち溢れた素晴らしい講演でした。

